

北海道新聞社 「地方創生」支援事例と ご提案



INDEX

事例のご紹介	1
--------------	---

北海道のみなさまと世界を繋ぐ架け橋として 北海道新聞グループのインバウンド広報支援事業	8
--	---

北海道新聞社のクラウドファンディング「find H」始動	12
------------------------------------	----

2014年9月、政府は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、2015年度から2019年度の5カ年を第1期とする「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。同時に道内の市町村においても「地方版総合戦略」が策定され、それぞれの地域の特色を活かした地方創生プランが実行されてきました。北海道新聞社では、この地方創生の動きを応援するため2015年から社内横断組織として「地方創生支援プロジェクト」を立ち上げ、広報活動への支援はもちろん、体験型観光商品のブラッシュアップからDMOの設立支援や、札幌や道外主要都市でのプロモーション支援、また道外からのUターン事業支援などさまざまな分野でご支援させていただきました。

2020年から2024年までの第2期では、第1期の流れを基本的に継続するとともに、「地方へのひと・資金の流れを強化する」や「新しい時代の流れを力にする」「人材を育て活かす」など新たな指針も示されています。こうした新たな指針の実現のために北海道新聞社では、これまでの事業から領域を広げてさまざまな施策を講じております。SNSを通じての多言語発信事業や、外国語によるコンテンツ制作などインバウンドに対応するメニューを豊富に取りそろえたほか、クラウドファンディング事業も新たに開始いたしました。このような施策により、地方創生のご支援をより効果的に行う体制が整ってまいりました。

北海道新聞社が、地方創生のためにご支援できる一例をまとめさせていただきました。この事例はあくまで参考資料です。私たち北海道新聞社は、地域の課題解決のために皆さまと一緒に考え、一緒に行動いたします。ぜひお気軽にご相談ください。

豊浦町DMO企画

DMO立ち上げから、その後の取り組みまでのレポートを紙面にて発信

豊浦町のDMO（観光地域づくりコーディネート組織）立ち上げから、その後の取り組みのレポートを作成しました。キックオフフォーラムを皮切りに、勉強会や、町民自らがまちの魅力を掘り起こすためのワークショップを重ねていった、その様

子を採録広告として掲載しました。

現地視察を通して、でき上がった体験観光プログラムには、2年間に全道から750人を超えるモニターが参加しました。全道版15段でのシリーズ広告展開は刺激的でもあったようで、受け入れ役を担った多く

の町民の意識も変わっていき、2018年の本格的なDMO組織づくりのための、まちの合意形成のお役にも立つことができ大変光栄でした。

（室蘭支社営業部）



（2016年1月17日、2月21日、3月20日、11月27日、2017年3月12日 朝刊 全道版 全15段）

紙面にて「バードウォッチングを起爆剤とした欧州インバウンド受入プロジェクト事業」を発信

ちょうど、小清水町の豊かな自然を活かし

紙面の掲載後、小清水町へ紙面パネルの納品と共に反響を伺いに行くと、晴れ渡った小清水のブルースカイと斜里岳がマッチングした紙面を多くの方に喜んでいただけていました。また、小清水観光協会にも印象を伺うと好感を持って受け入れられたことを

(北見支社営業部)



浦河町・様似町・えりも町・広尾町合同 観光情報交換会＋物産展イベント

札幌でのプロモーション（とんがりグルメフェア等）と紙面での展開

北海道日高東部の浦河町、様似町、えりも町と、十勝南部の広尾町の四町は、通称「とんがりロード」と呼ばれる天馬街道、日高耶馬溪、黄金道路で結ばれていることから、日高と十勝という、振興局圏域を越えた地域間連携によるエリアの活性化に共に取り組んでいます。この四町圏域の発展のためにつくられた「四町広域宣伝協議会」では、2017年度中の札幌圏での物産プロモーションを検討していたため、北海道新聞本社1階（札幌）の「道新プラザ

DO-BOX」での物産展を提案しました。

イベント初日の11月15日は、メディア・エージェント・観光行政へのPRと、これまでの活動報告を兼ねた「第1回とんがりロード観光情報交換会」を実施し、11月16～17日の2日間で地域特産品の販売をする「とんがりグルメフェア」を「道新プラザDO-BOX」と北海道新聞社本社1階玄関前ピロティスペースにて実施しました。

四町広域宣伝協議会では当初、過去に

自治体や漁組で参加したことのあるイベントへのブース出展や、会場費がかからず食材をレストランメニューにも取り入れてくれるホテルとの物産展タイアップを検討していました。そこで、弊社からは「道新プラザDO-BOX」を活用した自治体物産イベントの過去事例をご紹介。ホテルを会場に別予算で検討されていた観光情報交換会も「道新プラザDO-BOX」で一緒に実施できることもPRしました。ほかにも、「とんがり」エリアを広域にPRできる新聞広告に魅力を感じていただき、最終的に今回の実施になりました。

イベント初日には、四町長も来札される中、オープン前には約50人の行列ができました。目玉イベントの昆布つかみ取りにも多くの方が並び、一日中客足が途切れることなく賑わいをみせました。2日間の来場者数は約2,000名で、売上は約110万円と、目標としていた販売数も達成することができました。

地域の特産品の販売だけではなく、「とんがり」エリアの認知度アップへの貢献についても北海道新聞の媒体力を評価していただきました。今後もしっかりと貢献してまいります。

（苫小牧支社営業部）



「とんがりグルメフェア」チラシ



物産展の様子



観光情報交換会の様子



（2017年11月12、16日朝刊 札幌本社版 全5段）

深川・留萌自動車道 全線開通企画

2019年度の全線開通へ向けたPR事業、デジタルスタンプラリー等の実施

羽幌の甘エビや小平のタコ、増毛のリンゴ、初山別のフグ出汁…。留萌管内には魅力ある特産品があるのに知名度はいまひとつ。深川・留萌自動車道開通に合わせて、札幌や旭川など周辺地域から来てもらいたいと、留萌振興局や留萌管内8市町村などでつくる深川・留萌自動車道全線開通地域活性化協議会からPR業務に関して相談を受けました。

観光客はどこから？リピーターは何に興味があるのか？など管内観光についてマーケティングを実施して、分析結果を今後に活かしてもらおうと、スマートフォンによるデジタルスタンプラリー（下記の写真

を参照）を主軸としたPR活動を北日本広告社旭川本社と共同で提案しました。具体的には、管内の飲食店や道の駅に2次元バーコードを設置。一度でも訪問してもらいたいと、夏期の管内で開かれるイベント会場でも限定スタンプを用意して、さらに誘客数のアップを狙いました。

PRには北海道新聞社のアカウントのLINEやfacebook広告のほか、新聞広告をスマホユーザー以外の顧客層を取り込むために利用しました。2018年6月から8月までに夕刊テレビ面に手描きの「オロロンまっぴ散歩道」を9回掲載したシリーズ広告は、読者からの反響も大きく、読者

センターには過去の掲載日の問い合わせが寄せられました。「夕刊をみたい」との声もありました。インターネットだけではリーチしない顧客の獲得に、新聞広告が有効であることを感じました。

※深川・留萌自動車道は1992年に着工。現在は道央自動車道深川ジャンクションから留萌大和田インターチェンジまでの約45㎞が開通しています。留萌インターチェンジ（仮称）まで約4㎞が2019年度中に完成する見込みです。

（旭川支社営業部）



（2018年6月22日 朝刊別刷「さっぽろ10区」札幌市内版 全5段）



（道新ママトーク）



（LINE DIGEST Spot）



白老町 イベント+フォーラム+意識調査

多文化共生イベントの実施およびフォーラムの採録発信と、意識調査

白老町は現在、道内のみならず、道外、国外からも注目されている自治体です。2020年4月に「民族共生象徴空間」(愛称:「ウポポイ」)がオープンすることが大きな理由の一つです。アイヌ文化を復興・発展させる拠点、そして、国として、先住民族の尊厳を尊重し差別のない多様な文化を持つ社会を築いていくための象徴、という意義を持つプロジェクトとして整備が進められています。

白老町では《多文化共生》をスローガンに掲げ、あらゆる人種や文化、価値観などが共存共栄するまちづくりを推進しています。取り組みの一つとして、「アイヌ文様刺繍入り巨大パッチワーク」の製作が行われ

ています。今回は、この取り組みを白老町内に留めず、全道に住む読者に広く知ってもらうため、パッチワーク作りイベントの実施から、フォーラムの採録広告の掲載、意識調査までのお手伝いをさせていただきました。

「多文化共生」は漢字で構成され、意味を捉えることが難しく感じませんか? 一見難しく思えるこの言葉を、言葉の壁を超えて理解へ導く取り組みが「アイヌ文様刺繍入り巨大パッチワーク」の製作です。各地から寄せられた思いのこもった布に、町民主体で、アイヌ文化の素晴らしい表現であるアイヌ文様刺繍をした後、布を縫い合わせて作品にしています。現在は、地域おこ

し協力隊としてロシア出身のデザイナーさんも参加されており、イベントではハワイアンキルトとのコラボレーションも始まりました。

広告掲載に関する意識調査(DODES)では、広告閲覧後の『「多文化共生」への理解度』が68.8%(女性では76.8%)と、広告掲載の意義を感じる結果が得られ、広告紙面に掲載した二次元バーコード(パッチワーク作り参加者募集サイトへのリンク)のクリック数も掲載から一週間で700件を超えるなど、数字でも広がりが確認できました。

今後の展開にもぜひご注目ください!

(苫小牧支社営業部)

あなたも「巨大パッチワーク作り」に参加しませんか?

世界の平和・希望・共生などの願いを持つ、アイヌ文様刺繍入り巨大パッチワークの制作に参画ください。下記4月24日に開催される「民族共生象徴空間」(ウポポイ)に展示される作品は、アイヌ文化の復興・発展を促すとともに、多文化共生の象徴として残ります。

白老町 経済産業課 観光振興グループ
TEL0146-82-6214(白老町内)TEL0146-82-6215(白老町外)

白老町 経済産業課 観光振興グループ
TEL0146-82-6214(白老町内)TEL0146-82-6215(白老町外)

みんなの心つながる 巨大パッチワーク

「多文化共生」をスローガンに、あらゆる人種や文化、価値観、若者男女が共存共栄するまちづくりを推進する白老町。そこでは、町民が一枚一枚の布をつなぎ合わせる「アイヌ文様刺繍入り巨大パッチワーク」が作られています。11月4日に開催された「しろおい多文化共生のまちづくりフォーラム」では、パッチワークによる人々の交流について4人のパネリストが語り合いました。

この事業は、一般財団法人自治体間国際化協会の助成事業により実施されています。

Panelist

安藤 典光 白老町長 白老町に生まれ育ち、アイヌ文化の復興・発展を促すとともに、多文化共生の象徴として残ります。	藤 本 友子 白老町副町長 白老町に生まれ育ち、アイヌ文化の復興・発展を促すとともに、多文化共生の象徴として残ります。	藤田 小百合 白老町議会議員 白老町に生まれ育ち、アイヌ文化の復興・発展を促すとともに、多文化共生の象徴として残ります。	藤田 貴子 白老町議会議員 白老町に生まれ育ち、アイヌ文化の復興・発展を促すとともに、多文化共生の象徴として残ります。
---	--	---	--

2020年4月24日、白老町ポロト湖畔に「民族共生象徴空間」誕生。

白老町に誕生する「民族共生象徴空間」は、アイヌの歴史や文化に関する幅広い情報を提供し、アイヌ文化の復興・発展を促すとともに、多文化共生の象徴として残ります。

白老町ポロト湖畔に誕生する「民族共生象徴空間」は、アイヌの歴史や文化に関する幅広い情報を提供し、アイヌ文化の復興・発展を促すとともに、多文化共生の象徴として残ります。

(2018年11月25日 朝刊 全道版 全7段)

しりうち移住・定住プロモーション企画

札幌でのシティプロモーションと紙面での展開

知内町では当初、紙面のみを活用した移住・定住訴求展開を想定されていましたが、より訴求効果が高いイベント連動型の内容に組み立てて提案をし、実施に至りました。

他の自治体などの北海道新聞社本社1階の「DO-BOX」を活用した物販イベントなどの事例を参考にしつつ、まずは特産品販売や観光PRなどによる知内町の魅力発信を通じて、移住・定住に対する興味関心を醸成するといった、新たな切り口での訴求展開を行いました。

知内町にとってはすべてが初めての試みだったため、手探り状態の中、何度も綿密な打ち合わせを繰り返しながら形にしていきました。

また、移住・定住訴求を行った全道版15段の紙面中では、ファイナンシャル・プランナーによる事例をもとにした移住メリットなどを盛り込み「しりうち暮らし」をイメージしやすい構成を心掛けました。さらに、イベント会場への来場が難しい読者向けに、移住・定住関連の資料送付も行うなど、紙面単体でも充分効果が出せるよう

な内容にし、多方面から効果が得られやすい企画展開を試みました。

会場での移住・定住情報発信、移住相談等の人数は想定を上回る成果を出すことができました。来場し、移住相談をした読者が後日、実際に知内町まで視察に来るなどの成果もありました。

知内町からも高い評価をいただき、次年度についてもぜひまた、お役に立つことができればと思っています。

(函館支社営業部)

(2016年11月3日 朝刊 全道版 全15段)

苫小牧市合同就職説明会 企画

北海道新聞社のノウハウを活用し、苫小牧市の合同就職説明会を運営

苫小牧市では、労働力市場開拓や人材確保、定住促進を目的とし、首都圏および札幌市で合同就職説明会を開催することで、苫小牧市内企業の人材確保支援を行う事業に取り組んでいます。平成30年度で4回目を迎えた当該事業を、公募プロポーザルを経て、2018年7月に北海道新聞社が受託しました。

苫小牧市のご担当者様より、過去の結果や課題点などを共有していただいたところ、単独自治体でのイベント集客は大変難しいという課題が浮き彫りになりました。その課題に対して、北海道新聞社が取り

組む類似別事業との同日時・同会場でのイベント開催、本社営業局求人チームを主体として実績を積み上げている、新聞×イベント×ウェブページ展開という、クロスメディアを活用した「ジョブダス就活」のシステム使用を含めた提案を行いました。

その結果、18年9月東京開催（出展企業24社）、19年3月札幌開催（出展企業30社）の合同就職説明会で、両会場共に過去3年間の実績を大きく上回る来場者数を記録しました。また、東京会場開催前には札幌本社版30段の特集にて、札幌会場開催前には全道版別刷特集にて、苫小

牧市の魅力に加え出展企業の情報を発信。日頃、新聞広告出稿の機会のないBtoB企業の企業情報の発信機会ともなり、企業ご担当者様からは「いい機会になった」という声も多く頂戴しました。

出展企業の募集から他媒体も含めた広報展開の準備、当日の運営とイベント実施後のフォローアップ調査までを担当し、前年度よりも東京を、東京よりも札幌をよりよくと課題解決に向けての毎日です。引き続き、必要な動きは何かという視点を持って、広告主様と展開していきたいと思えます。

（苫小牧支社営業部）



（2019年3月5日 朝刊別刷 全道版 ブランケット判 全4ページから抜粋）



（会場の風景写真）

北海道のみなさんと
世界を繋ぐ架け橋として

北海道新聞グループの インバウンド広報支援事業

プロの編集チームがプロデュース
「コンテンツ制作&翻訳」

PR用オリジナル記事・ 動画の制作

地域や施設の魅力を最大限に引き立たせる切り口やストーリーをご提案し、記事や動画コンテンツにまとめます。日々の取材活動で培ってきた編集制作ノウハウで世界に伝わるコンテンツづくりをサポートいたします。



コンテンツの多言語翻訳

主要5言語の翻訳に対応し、外国人と日本人によるダブルチェックで翻訳の精度を高めるほか、ネット専門の翻訳業者では対応が難しい地名表記など北海道特有のファクトチェックなども行います。

〈対応言語〉 ●英語 ●簡体字 ●繁体字 ●韓国語 ●タイ語

※その他の言語翻訳をご希望の方はご相談ください。



海外拠点や協力企業との連携による 「情報発信」

海外プレスリリース

英文プレスリリース原稿の作成や校正を行います。事業提携先である共同通信社のグループ媒体や海外報道機関、SNS、サイネージなどのデジタルツールや、北海道新聞の海外支局網などを活用して情報発信を行います。



ベトナム通信掲載記事
(ベトナム)

台湾TV

北海道新聞公式アカウントSNS

北海道新聞に掲載された179市町村の記事や動画の中から毎日1本ピックアップし、SNSを通じて海外に発信しています。本アカウントを通じて情報を発信することも可能です。詳細はご相談ください。

SNSを通じて北海道の魅力を発信しています。(1日1~2記事の配信)



元記事



英語版



繁体字版



フォロワー合計 **約110,000名**
(2019年6月現在)

◆ Facebook

- ・The Hokkaido Shimbun Press(英語版) 約70,000名
- ・Hokkaido Shimbun Thailand(タイ語版) 約27,600名
- ・北海道新聞 繁體中文版(繁体字版) 約11,300名
- ・Hokkaido Shimbun Korea(韓国語版) 約1,400名

◆ Weibo

- ・北海道新聞 簡体中文版(簡体字版) 約220名



簡体字版



タイ語版



韓国語版

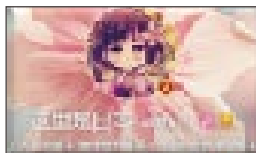
※2019年度中には、多言語発信事業の基盤となるグローバルWebサイトを開設予定です

インフルエンサー/KOLの活用とターゲティング広告配信

中国最大のSNS「新浪微博」(Weibo)にて広告の配信が可能です。

50万人以上のフォロワーを擁する複数のKOL(Key Opinion Leader)との提携により、効果的な情報拡散を図ります(協力:JGM社)。

KOLの自社番組内でのPRのほか、ダイヤモンドビッグ社やKADOKAWAグループの海外発行情報誌とタイアップしたPRにも対応いたします。



日本情報発信影響力No.1
フォロワー数最多



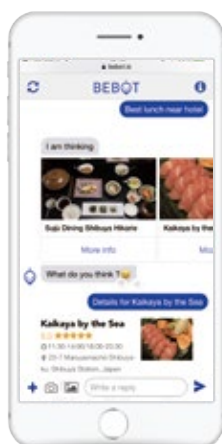
在日中国人KOLの中で知名度No.1
メディア露出多数



外国人客へのダイレクトな訴求を実現
「プロモーション」

海外プレス招待/FAMツアー

外国メディアや旅行会社の担当者を招くプレスツアーの企画・提案プレス用資料の作成や、通訳の手配などをトータルで承ります。また、海外KOLの招待などでもできますのでご相談ください。



BEBOT

ホテルや空港、駅、自治体様など多数の導入実績

AIチャットコンシェルジュ

AIが24時間365日、多言語でおもてなしを実現するチャットボット「BEBOT(ビーボット)」の導入をお手伝いいたします。外国人からスマホなどで寄せられる質問やご要望にAIがチャットで対応。飲食店などの予約、道案内などをスタッフに代わって行うサービスです。

- 英語・簡体字・繁体字に対応!
- アプリのダウンロード不要(Wi-fi即時起動もしくはサイト実装)

導入実績(一部)



Bebot の機能



飲食店・
アクティビティの予約

Bebotが24時間予約を
代行するので、
お電話不要です。



24時間他言語対応

深夜早朝も人間スタッフの
代わりにBebotがスマホ上で
スイスイ回答。



ルート案内

複雑な道順もBebotが
チャット上で分かりやすく
ご案内。地図も送れます。



おすすめ情報

検索エンジンでは上位に
上がらない、地元の人による
耳より情報もBebotにお任せ。

イベントプロモーション

北海道新聞グループは、道内のみならず海外でも多様なイベントを開催して参りました。ご要望に応じ、企画運営を承ります。海外への売り込みや商談につながるイベントをご検討される際には、ぜひご相談ください。



【海外イベントの様子】

海外イベントを通じた北海道の魅力発信

海外旅行博の企画運営や、受託事業など豊富な実績であらゆるご要望に応じたプロモーションをご提案いたします

タイ国際旅行博 (TITF)



The HOKKAIDO Fair in Bangkok, Thailand



Garuda Travel Fair (GATF)



グッドラックトリップ北海道

北海道を観光する外国人旅行者向けのフリーマガジンを発行。個人旅行者をターゲットにした冊子で、便利な地図情報を多く掲載しています。誌面は英語、繁体字、タイ語の3カ国語で表記されています。
(年2回発行 1月/7月)



2019年7月 北海道新聞社のクラウドファンディング始動

北海道新聞社のクラウドファンディング「find H(ファインド・エイチ)」は、
夢をかなえたい人とその夢を応援したい人をつなぐサイトです。

find Hの特徴

- 地域特化型サイトとして北海道に関連するプロジェクトに限定して掲載します
- 北海道新聞社の媒体力を活かして幅広い告知を行います

1 新聞記事での告知 北海道新聞朝刊 第3社会面 随時掲載

find H 北海道の絶景をパノラマ空撮！ 注目プロジェクト▶ 2020年版写真カレンダー制作

北大名誉教授の青木由直さんは、2015年から空撮パノラマ写真のカレンダーを制作しており、今年も制作を予定しています。北海道の絶景を空から見下ろした、素晴らしいパノラマ景観を存分に堪能できるカレンダーを制作するための費用を募集しています。

2020年版カレンダーは北海道に住んでいても知らない魅力あふれる12作品がそろっています。「オタルナイ湖とループ道路」や「シュベロダムと夕張駅」「緑の親子岩と緑の駅」など、いずれも迫力のあるパノラマ写真です。

北海道新聞社のクラウドファンディング「ファインド・エイチ」は、夢をかなえたい人とその夢を応援したい人をつなぎます。詳しくは「ファインド・エイチ」で検索を。

【9月19日付朝刊】「パノラマ空撮カレンダープロジェクト」

2 新聞広告での告知 北海道新聞朝刊 全道版カラー紙面で 必ず紹介します

現在募集中のプロジェクトの一例をご紹介します。
お問い合わせ：北海道新聞社 広報課 電話 011-210-5569 (9:30~17:30 土・日・祝日を除く)
<http://find-h.jp> 北海道新聞社

【7月10日付朝刊 全道版カラー】

北海道よろず 支援拠点との連携

経済産業省が設置している、
無料の経営相談所である
「北海道よろず支援拠点」と
連携を組み、北海道の中小
企業の課題解決にも取り組
んでいます。

7月4日(木)サイト開設 <http://find-h.jp>
お問い合わせ：北海道新聞社 広報課 電話 011-210-5569 (9:30~17:30 土・日・祝日を除く)
北海道新聞社

【6月25日付朝刊 全道版カラー】

ふるさと納税型クラウドファンディングも「find H」で！

「find H」はふるさと納税型クラウドファンディングにも対応いたします。

下記に紹介する事例など、支援を広げるためにさまざまなメニューをご用意しています。
ふるさと納税型クラウドファンディングをご検討の際にはぜひ「find H」をご活用下さい。

1 「とかスポ」十勝スポーツ構想！1,000人で競技場を青く染めよう

プロジェクトオーナー：
帯広青年会議所を中心とする
「2019年度十勝総合スポーツ戦略委員会」

目標金額：1,200,000円

支援金額：1,300,000円

達成：108.3%

【7月4日付朝刊 帯勝版】



2 北海道の象徴的存在であるシマフクロウを絶滅の危機から救おう

プロジェクトオーナー：
NPO法人北海道シマフクロウの会

目標金額：1,500,000円

支援金額：1,625,000円

達成率：108.3%

【8月23日付朝刊 全道版】



3 雪ミクと皆の力で札幌モーターショー2020を盛り上げよう

プロジェクトオーナー：札幌モーターショー2020実行委員会

目標金額：1,000,000円

支援金額：2,600,000円（10/9現在、プロジェクト進行中）

雪ミクが公式アンバサダー就任！雪ミクと皆の力で札幌モーターショー2020を盛り上げよう！

by kitsa #ジャンル：地域活性化 G 地域：北海道 P 種類：目標達成

すでに集まった金額
2,464,000円

目標金額
1,000,000円

支援金額を選択する

現在の応援人数
225人
超え248人

募集終了まで残り
54日
2019/12/01 00:00に終了

Twitter いいね139

北海道新聞社

□ 札幌本社営業局

〒060-8711
札幌市中央区大通西3丁目6
TEL 011-210-5713
FAX 011-210-5727

□ 釧路支社営業部

〒085-8655
釧路市黒金町1丁目
TEL 0154-31-2724
FAX 0154-31-2727

□ 苫小牧支社営業部

〒053-0022
苫小牧市表町1丁目3
TEL 0144-33-5363
FAX 0144-32-2034

□ 東京支社営業局

〒105-8435
東京都港区虎ノ門2-2-5
共同通信会館1階
TEL 03-6229-0313
FAX 03-6229-0305

□ 函館支社営業部

〒040-8688
函館市五稜郭町3丁目
TEL 0138-32-5124
FAX 0138-32-5129

□ 小樽支社営業部

〒047-0032
小樽市稲穂2丁目8
TEL 0134-23-3171
FAX 0134-22-5607

□ 帯広支社営業部

〒080-8655
帯広市西4条南9丁目1
TEL 0155-24-2153
FAX 0155-24-0862

□ 大阪支社営業部

〒530-0001
大阪市北区梅田1丁目11
駅前第4ビル
TEL 06-6343-1831
FAX 06-6343-1837

□ 旭川支社営業部

〒070-8720
旭川市4条通9丁目
旭川北洋ビル
TEL 0166-21-2540
FAX 0166-21-2541

□ 室蘭支社営業部

〒051-0011
室蘭市中央町3丁目5-1
シルク21室蘭
TEL 0143-22-5163
FAX 0143-23-6622

□ 北見支社営業部

〒090-8655
北見市幸町1丁目2
TEL 0157-24-4455
FAX 0157-31-4085

担当者